

やまもと じょう たろう
山本 丈太郎さん
(今庄中3年)



戦争や差別をしないで

中国を代表する思想家の魯迅が日本に留学した際、あわら市出身の藤野九郎先生に添削された医学ノートの複写本が、同市に寄贈されている。当時、日清戦争で清が敗れ、中国人をさげすむ風潮があったにもかかわらず

ならず、藤野先生は魯迅の医学ノートを単なる医学的誤りだけでなく、日本語の使い方に至るまで細かく添削し、日常生活の便宜も図っていたそう。その当時の医学ノートは中国で見つかり、国宝に指定されている。

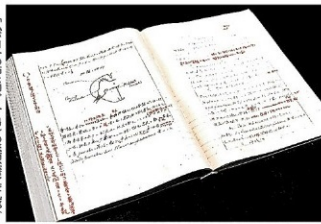
僕は、魯迅にとって一番の恩師があわら市出身の日本人だということに驚きました。そして、ノートが寄贈されたことを知り、とてもうれしかったです。

一方、当時の日本人は、戦争で勝ったからといって魯迅をはじめとするたくさん中国人に対し、差別やいじめをしていたと知り、複雑に思いました。これからの社会では、戦争をしてほしくないと強く思いました。私は魯迅と藤野先生のように、国籍が違ってても互いに認め合えるようになりたいです。

5月6日付(1面)

藤野先生添削 魯迅医学ノート(複写)

師弟の愛にじむ朱筆



魯迅先生が日本に留学した際、あわら市出身の藤野九郎先生に添削された医学ノートの複写本が、同市に寄贈されている。当時、日清戦争で清が敗れ、中国人をさげすむ風潮があったにもかかわらず、藤野先生は魯迅の医学ノートを単なる医学的誤りだけでなく、日本語の使い方に至るまで細かく添削し、日常生活の便宜も図っていたそう。その当時の医学ノートは中国で見つかり、国宝に指定されている。

僕は、魯迅にとって一番の恩師があわら市出身の日本人だということに驚きました。そして、ノートが寄贈されたことを知り、とてもうれしかったです。

